

令和 2 年 度

# 入 学 試 験 問 題

学校法人 明星学園

浦和学院専門学校

看護学科

国 語

(一般入試 II期)

[注意事項] (試験が始まる前に読んでおくこと。)

- 1 受験票は机の上に表示された受験番号の横におくこと。
- 2 問題用紙は試験開始の合図があるまで開かないこと。
- 3 解答用紙に受験番号、氏名を正確に記入すること。
- 4 下敷の使用は禁止する。
- 5 試験終了時に解答用紙と問題用紙は別々に回収する。
- 6 試験終了後は試験監督の指示に従って行動すること。

※ なお、試験中に気分が悪くなった場合は試験監督に申し出ること。

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私たちは過去がどのように形成されてきたのかを考察することによって現在をつかみ、未来をみつけどそうとする。しかしそれは、大きな 1 のなかでおこなわれている①営イなのではなかったか。

過去とは現在から②シヨウ射された過去である。

もちろん私たちは、過去のある事実を知っている。たとえばフランス革命は一七八九年に起こった。その事実は誰も否定することはできない。ところが一七八九年にフランス革命が起きたという言葉を発したとき、私たちは単なる事実を述べているのではなく、すでにそれが近代革命であることを知っていて、近代革命のもつ意味を③ガン意させてフランス革命を語っている。A それは、解釈された一七八九年のフランス革命なのである。そしてその解釈は現在の問題意識とおしておこなわれ、しかもその問題意識は個人の問題意識であるとともに、その時代に包まれているがゆえに成立する個人の問題意識である。

現在を包んでいるものが、個人にそのような問題意識を成立させ、それを介して解釈された過去が成立する。とするとここに成立した過去とは、事実としての過去ではなく、物語られた過去、ということにはならないか。(a)

同じように、B 私たちは一六〇〇年に関ヶ原の戦いが起きたという事実を知っている。しかしこれも戦国時代の最終的な終了であり、幕藩体制の確立という、現在の問題意識からとらえられたひとつの時代認識として、私たちは語っている。(b)

とすると、事実としての過去はどこにあるのだろうか。認識された過去が、現在性のなかからつかみとられ、展開された過去であるとするなら、事実としての過去はつかみえないものになるはずだ。(c)

だが、しかし、と多くの人は言うかもしれない。C 正しく認識することには多くの困難があるとしても、事実としての過去は実際に成立していたのだ。だから a それを正確に読み解こうとして、人々は多くの文献を読み、それを正確に読解しようとして、これまで努力してきたではないか。それを積み上げていけば百パーセント正確な過去はとらえられなくても、事実に近似的な過去は描けるはずではないのか。(d)

このように述べられたなら、b 私はそれを半分は肯定し、半分は否定するだろう。たとえば近代になって自動車が開発され、移動、運搬手段の中軸になっていった歴史がある。そしてこの歴史は、どのようにして自動車が開発され、いかに改良、量産化され、社会のなかで利用されていたのかを多くの資料を使って精密に考察すれば、事実としての自動車の歴史に近似的な歴史を描くことはできるだろう。(e)

D そこで問わなければいけないもうひとつのことは、自動車の歴史をおして研究者は何を語ろうとしているのか、である。近代的な産業の発達史なのか、技術者たちの④ク闘の歴史なのか、そこで働いた労働者たちの近・現代史なのか。今日なら環境破壊の大きな原因がいかに形成されていったのかという視点もありうる。私たちを包んでいる世界がこのような視点も要求しているからである。

とすると結局生まれてくるのは、c 現在の問題意識によってとらえられ、物語られた自動車の歴史、ということになるだろう。

だが、さらに次のように述べるかもしれない。私は一切の主観を排して、客観的事実だけをと

らえようとしているのだ。とすればみえてくるのは、純粋な事実だけなのではないか、と。

このような問いかけに対して、私はふたつのことだけを述べておくことにしよう。ひとつは、人間は主観を排することができると思うことはできても、主観を排することはできないということである。なぜなら人間は、主観とは個人的に産出したものだど錯覚しているけれど、実際にはその個人を包んでいる世界のなかで個人的に形成されたものだからである。つまり、包んでいる世界がたえず主観を要求し、それと向き合うとき生まれてくるのが主観である。だから自覚的であれ、無自覚的であれ、包んでいるものと向き合うことをやめることができない以上、人間は主観を捨て去ることはできないだろう。

もうひとつ指摘しておかなければならないのは、「客観的事実」とは何か、である。たとえば一八六八年に明治政府が成立したのは客観的事実である。ところがそれを語ろうとすると、前提として、dそのこと<sup>1</sup>によって歴史が動いていったという主観が介在する。つまりこういうことである。一八六八年に江戸は東京に変わり、東京に新しい中央政府が設立された。だがそれがすべての人の出来事だったのかといえはそうではない。まだ各地の藩も残っていた。村々では一八六八年になっても、変わることのない村人の生活と労働があった。一八六八年に何の転機も迎えなかった多くの人々がいたのである。

とすると、そのどちらを重視するのか。描かれているのは主観によって選択された「客観的事実」である。

だが、と再び反論する人はいるだろう。確かに一八六八年になっても何の変化もなく暮らしていた人がいたことは事実だとしても、その人たちも次第に明治政府の成立によってさまざまな影響を受けることになるではないか。そうであるなら、その人たちにとっても一八六八年は、変化がはじまる年であったと考えるてもよいはずだ、と。

確かにそのとおりである。村で「明治維新」がはじまるのは、それから何年かたってからかもしれないが、その方向性が一八六八年から引かれていたことは確かだ。

しかしそのことを指摘するなら、次のこともまた指摘しておかなければいけない。それは明治政府の成立によって、そのときも変わることなく生活していた人々が影響を受けたように、明治以降の政治史もまた、土を耕やし、村に暮らした人々の影響を受けつづけたということである。その人たちの変わることのない生活と労働の態度に無言の圧力を受けながら展開していくのが、日本の近代史である。

とすれば、一八六八年の明治政府の成立だけを選択するのは、異論をさしはさむ余地のないことではない、ということにはならないか。生活や労働の態度を変えることなく暮らしていた人々の様子を一八六八年の出来事として選択し、その人たちが日本近代史にどのような影響を与えつづけるのかという視点から、歴史を読み解くこともできるのである。

内山節『日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか』

問一 点線部①～④のカタカナを漢字に直したときと同じ漢字を用いるものをあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 営イ【解答番号は1】

- a 着イ水泳に挑戦した。
- b 故イか過失かが問題だ。
- c 薬物イ存はきちんと治療すべきである。
- d 彼は優れたイ政者だ。
- e イ任状を提出してください。

② ショウ射【解答番号は2】

- a ショウ明を落として欲しい。
- b 彼は心配ショウウな人間だ。
- c 自己ショウウ介をお願いします。
- d 戸籍ショウウ本を取りに行った。
- e ショウウ待状を受け取った。

③ ガン意【解答番号は3】

- a ガン健な身体を持っている。
- b タンパク質のガン有量を調べた。
- c 彼は厚ガン無恥な人間だ。
- d 試合の前にはいつもガン掛けをする。
- e 彼女が対ガンで手を振っている。

④ ク闘【解答番号は4】

- a ク遠の理想を追い求め続けている。
- b その言葉を聞いて思わず絶クした。
- c 四輪ク動車は雪道で重宝される。
- d 彼女はク学生で知られている。
- e 深クの洋服を身につけた。

問二 空欄A～Dを埋めるのに最も適当な語を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。同じ記号は一度しか使えません。〔Aは解答番号は5、Bは解答番号は6、Cは解答番号は7、Dは解答番号は8〕

- a もちろん
- b だが
- c すなわち
- d たとえば
- e たとえ

問三 本文のある箇所からは次の一文が抜けています。元に戻す場合に最も適当な箇所を(a)～(e)の番号で答えなさい。【解答番号は9】

へやはりここににあるのも物語られた過去である。く

問四 傍線部 a 「そのこと」とは何を指しますか。説明する言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。【解答番号は10】

- a 展開された過去
- b 事実としての過去
- c 多くの文献
- d 認識された過去
- e 物語られた過去

問五 傍線部 b 「私はそれを半分は肯定し、半分は否定するだろう」とありますが、それはなぜですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。【解答番号は11】

- a 事実に近似的な過去を描こうとする一方で、主観を捨て去ることはできないから。
- b 事実に近似的な過去を描こうとする一方で、客観的事実以外とらえることはできないから。
- c 事実に近似的な過去を描こうとせず、純粹な事実のみを追い求めているから。
- d 事実に近似的な過去を描こうとせず、客観的事実のみを追い求めているから。
- e 事実に近似的な過去を描こうとせず、主観のみを重要視しているから。

問六 傍線部 c 「現在の問題意識によつてとらえられ、物語られた」内容にあてはまらないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。【解答番号は12】

- a 明治以降の政治史は土を耕し、村に暮らした人々の影響を受けつづけた。
- b 関ヶ原の戦いはすなわち戦国時代の終了と幕藩体制の確立を意味するものである。
- c フランス革命とは近代革命の中において起こった事実の一つである。
- d 近代になって自動車が開発され、移動、運搬手段の中軸になっていった。
- e 自動車の開発の背景にはそこで働いていた人々の近・現代史が存在していた。

問七 空欄 1 にあてはまる語として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。  
〔解答番号は13〕

- a 錯覚
- b 幻覚
- c 感覺
- d 直覚
- e 統覚

問八 傍線部 d 「それ」とは何を指すか。説明するものとして、あてはまるものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。〔解答番号は14〕

- a 「客観的事実」とは何かと問うこと。
- b 一八六八年に明治政府が成立したという客観的事実のこと。
- c 人間は主観を捨て去ることはできないのだということ。
- d 明治政府の成立という客観的事実について語ろうとすること。
- e 明治政府の成立がすべての人の出来事ではなかったことを語ろうとすること。

問九 本文の内容と合致しないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。〔解答番号は15〕

- a 我々は過去に起こった「客観的事実」を、主観によって選択している。
- b 解釈された過去は、個人の問題意識を介して成立するが、個人の問題意識はその時代によって成り立っている。
- c 一切の主観を捨て去り、客観的事実だけをとらえることはできない。
- d 日本の近代史においては、明治以降の政治史がそれ単体で存在したわけではなく、一方で人々の生活や労働の態度が影響を与えていたのだということも無視してはならない。
- e 主観は個人を包んでいる世界のなかで個人的に形成されるものであるため、人はそれを捨て去って「客観的事実」を手に入れるべきである。

二 次の①～⑩の熟語の構成をあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 疎密〔解答番号は16〕      ② 旋風〔解答番号は17〕  
③ 未詳〔解答番号は18〕      ④ 剰余〔解答番号は19〕  
⑤ 座礁〔解答番号は20〕      ⑥ 愉悦〔解答番号は21〕  
⑦ 岐路〔解答番号は22〕      ⑧ 出納〔解答番号は23〕  
⑨ 併用〔解答番号は24〕      ⑩ 謹呈〔解答番号は25〕

- a 同じような意味の漢字を重ねたもの。  
b 反対または対応の意味の漢字を重ねたもの。  
c 上の字が下の字を修飾しているもの。  
d 下の字が上の字の目的語・補語になっているもの。  
e 上の字が下の字の意味を打ち消しているもの。

三 次の熟語の対義語をあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 切開〔解答番号は26〕      ② 狭量〔解答番号は27〕  
③ 提出〔解答番号は28〕      ④ 弟子〔解答番号は29〕  
⑤ 直系〔解答番号は30〕

- a 寛容      b 傍系      c 撤回      d 師匠      e 縫合

四 次の熟語の類義語をあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 貧困〔解答番号は31〕      ② 庶民〔解答番号は32〕  
③ 必死〔解答番号は33〕      ④ 我慢〔解答番号は34〕  
⑤ 継承〔解答番号は35〕

- a 踏襲      b 懸命      c 忍耐      d 民衆      e 窮乏

五 空欄に入る適語を次の語群から選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 時代錯□〔解答番号は36〕

② 風□明媚〔解答番号は37〕

③ □易流行〔解答番号は38〕

④ 孟母□遷〔解答番号は39〕

⑤ 離□集散〔解答番号40〕

- |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | a | 後 | b | 誤 | c | 呉 | d | 期 | e | 互 |
| ② | a | 光 | b | 水 | c | 雲 | d | 山 | e | 谷 |
| ③ | a | 不 | b | 無 | c | 未 | d | 非 | e | 否 |
| ④ | a | 一 | b | 二 | c | 三 | d | 四 | e | 五 |
| ⑤ | a | 併 | b | 流 | c | 反 | d | 放 | e | 合 |

六 空欄に入る適語を次の語群から選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 提灯に釣り□〔解答番号は41〕

② □を見て枝を折る〔解答番号は42〕

③ □兎の勢い〔解答番号は43〕

④ 少年老い易く□成り難し〔解答番号は44〕

⑤ 事実は小説よりも□なり〔解答番号は45〕

- |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | a | 堀 | b | 竿 | c | 灯 | d | 鐘 | e | 鈴 |
| ② | a | 実 | b | 花 | c | 木 | d | 幹 | e | 葉 |
| ③ | a | 盗 | b | 逃 | c | 脱 | d | 飛 | e | 跳 |
| ④ | a | 勉 | b | 就 | c | 業 | d | 若 | e | 学 |
| ⑤ | a | 奇 | b | 縁 | c | 魔 | d | 実 | e | 誠 |



七 次の①～⑤の傍線部の活用の種類として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を何度用いても構いません。

- ① 彼女は遅れて来らしい。〔解答番号は46〕  
② 慌てて家を出たので転びそうになった。〔解答番号は47〕  
③ ここは魚がたくさん釣れるので、小さい時によく来た。〔解答番号は48〕  
④ 食べながら打ち合わせをしましょう。〔解答番号は49〕  
⑤ 私の元気がないので心配し、声をかけてくれた。〔解答番号は50〕

- a 未然形  
b 連用形  
c 終止形  
d 連体形  
e 仮定形